

## Ⅱ．主な研究活動

### 1．韓国における北海道食品（農水畜産物）の安全性に対する意識調査及び農商工連携に係るビジネス習慣の差異に関する日韓共同研究

#### （1）全北大学（韓国）との連携協定締結と第1回ワークショップ

ビジネス創造センターは八木宏樹教授（一般教育等）による「北海道の食品，食材に関する日韓共同マーケティングリサーチ」を支援しており，2011年度は李濟民センター長を研究統括として，この研究を推進する小樽商科大学重点領域推進研究経費プロジェクトを運営しました。

同研究は八木教授が社団法人北海道食品産業協議会や韓国の有力国立大学である全北大学オム・ヨンスク教授らと準備してきたもので，北海道と韓国それぞれの食品産業の互恵的な発展と海外展開を目標にしています。また，韓国政府が全羅北道益山市チョンラプクドイクサンシに建設中の「韓国国家食品クラスターFoodpolis」への北海道の食品産業の参入の支援も視野に入れています。2011年度は日韓それぞれの企業，消費者双方に対するマーケティングリサーチを実施し，今後は海外進出に伴うリスク分析も行う予定です。

研究チームは2011年6, 9, 11月に全北大学を訪問，9月には第1回ワークショップを実施し，研究推進のため，「全北大学バイオ食品素材開発及び産業化研究センター」「全北大学扶安桑の実RIS事業団」「社団法人エコビジョン研究所」と本学ビジネス創造センターとの間で3件の連携協定を9月7日に締結しました。

この第1回ワークショップでは，参加研究機関の紹介，共同研究の経過と今後の方針が話し合われました。

#### 第1回ワークショップ出席者

韓国全北大学バイオ研究センター	チョン・ヨンソプ教授・所長
韓国全北大学経済学部	ヤン・ビョンウ教授
韓国全北大学経済学部	オム・ヨンスク教授
韓国全北大学バイオ研究センター	キム・ヨンシク教授
韓国全北大学バイオ研究センター	イ・ユリ研究員
その他学部学生及び大学院生多数	
小樽商科大学CBCセンター長	李 濟民教授
小樽商科大学CBC副センター長	澤田 芳郎教授
小樽商科大学アントレプレナーシップ専攻	中村 秀雄教授
小樽商科大学商学部生物学研究室	八木 宏樹教授



調印式



記念撮影

## (2) 第2回韓日研究交流協力事業ワークショップおよびセミナー

2月21日(火)～22日(水)の2日間にわたって、2011年度小樽商科大学重点領域推進研究「韓国における北海道食品(農水畜産物)の安全性に対する意識調査及び農商工連携に係るビジネス習慣の差異に関する日韓共同研究」の第2回韓日研究交流協力事業ワークショップ、セミナーが小樽商科大学の主催で開催されました。

各日の内容は以下のとおりです。

### 全北大学－小樽商科大学ワークショップ

2月21日(火)、小樽商科大学ビジネス創造センターミーティングルームにおいて「全北大学－小樽商科大学ワークショップ」が開催されました。

このワークショップは2011年9月に韓国にて開催されたワークショップに続くものであり、共同研究の中間報告、日韓双方で企業、消費者双方に対して行ったマーケティングリサーチの結果の検討、翌年度の行動計画打ち合わせを行いました。

ワークショップの成果は、今後の北海道食品企業と韓国全羅北道内食品企業との互恵的発展の基礎資料に資するものです。とりわけ東アジア戦略においては、ものづくりの得意な北海道と販路拡大に積極的な韓国との協調路線で臨む予定です。

本ワークショップは2012年度以降も継続して行われます。

### 出席者

韓国全北大学バイオ研究センター	チョン・ヨンソプ教授・所長
韓国全北大学経済学部	オム・ヨンスク教授
韓国全北大学バイオ研究センター	キム・ヨンシク教授
韓国全州大学	チェ・ウオン Chol 教授

小樽商科大学CBCセンター長	李 濟民教授
小樽商科大学CBC副センター長	澤田 芳郎教授
小樽商科大学アントレプレナーシップ専攻	中村 秀雄教授
小樽商科大学商学部生物学研究室	八木 宏樹教授
小樽商科大学アントレプレナーシップ専攻	朴 庚洙 (大学院生)
小樽商科大学商学部生物学研究室	山畑 若菜 (学部学生・八木ゼミ)

### 全北大学—小樽商科大学セミナー（オープン形式）

翌 22 日（水）には、ロイトン札幌にて 2 本のセミナーが（社）北海道食品産業協議会との共催で開催されました。

このセミナーは第 10 回北海道フードフェア（主催：（社）北海道食品産業協議会・北海道食料産業クラスター協議会）との同時開催事業でした。

聴講者は、食品加工業、観光業、行政、報道機関、全北大学、小樽商科大学、北海道食品産業協議会、淳昌郡廳の関係者約 40 名で、会場は満席となりました。韓国側研究者から韓国における食品産業や消費者嗜好について 2 つの報告があり、聴講者は熱心に聞き入っていました。

#### プログラム

##### 1. 韓国<sup>スンチャン</sup>淳昌郡ジャン類産業特区による成功事例

発表者：（財）淳昌郡発酵微生物管理センター長/食品工学博士 チョン・ドヨン氏

##### 2. 農食品に関する日韓消費者の嗜好の比較

発表者：全北大学経済学部教授 オム・ヨンスク氏



セミナーの様子

## 2. 登録研究会

ビジネス創造センターに登録している研究組織の平成 23 年度における活動状況は以下のとおりです（五十音順）。

### ICT 研究会

1. 代表幹事名：奥田 和重（院アントレプレナーシップ専攻・教授）
2. 目的・内容：  
「北海道（地域）あるいは企業の情報化に関わる課題の解決を図りながらICT（情報通信技術：Information-Communication Technology）による社会・経済的価値の創造を考える」ことを目的としています。本研究会の活動は、具体的には以下の課題を中心に議論を行い解決の可能性を検討することです。
  - (1). 北海道（地域）の情報インフラの整備と地域経済の活性化
  - (2). 企業とマーケット（顧客），企業と企業，企業内における情報化
  - (3). 情報教育と人材育成

### 遠隔教育研究会

1. 代表幹事名：奥田 和重（院アントレプレナーシップ専攻・教授）
2. 目的・内容：  
遠隔教育の経済性評価に関する実証研究を行います。自治体の教育委員会や小・中学校と連携して遠隔教育システムを構築し、その経済性を評価するとともに、教育心理学の視点からシステムの有効性を評価します。

### 会計研究会

1. 代表幹事名：坂柳 明（商学科・教授）
2. 目的・内容：  
「世界に開かれた会計」を目指し、国際会計基準の歴史的変遷について、知識を深めることを目的としています。
3. 平成23年度活動実績：  
(1) : Accounting Theory : conceptual issues in a political and economic environment 7th ed (Harry I. Wolk, James L. Dodd, John J. Rozycki) を報告，検討しました。各回の報告者と報告内容は次の通りです。

5月28日(土) 小樽商科大学 札幌サテライト	第1回 檜山 純（北星学園大学・非常勤）：第9章 邵 藍蘭（札幌学院大学）：第10章
6月25日(土) 小樽商科大学 札幌サテライト	第2回 渡辺 和夫（札幌学院大学）：第11章 松本 康一郎（北星学園大学）：第12章
7月23日(土) 小樽商科大学 1号館	第3回 旗本 智之（小樽商科大学）：第13章 片山 郁夫（函館大学）：第14章
11月 6日(土) 小樽商科大学 札幌サテライト	第4回 檜山 純（北星学園大学・非常勤）：第15章 邵 藍蘭（札幌学院大学）：第16章
12月17日(土) 小樽商科大学 1号館	第5回 渡辺 和夫（札幌学院大学）：第17章 松本 康一郎（北星学園大学）：第18章

### **開発プロセス研究会**

1. 代表幹事名：平沢 尚毅（社会情報学科・教授）

2. 目的・内容：

システム（サービス，製品も含む）開発を『プロセス』の観点から探求することを目的としています。『プロセス』概念を基盤としながら，技術背景となるアーキテクチャー，組織成熟度，協働プロセスを含めた拡張概念を構想します。

特色：一般的な技術的なプロセスのみではなく，利用者，利害関係者などの人間を主体にしたプロセス論を展開します。そのため，様々な人間科学を理論背景に求めていきます。

3. 平成 23 年度活動実績：

平成 23 年度は，様々なソフトウェア品質の戦略に関して共同研究を実施しました。共同研究の内容は，企業の事情により公開できません。

### **CS(カスタマー・サティスファクション)研究会**

1. 代表幹事名：伊藤 一（商学科・教授）

2. 目的・内容：

目的：CS活動に関する研究。

## 経営研究会

1. 代表幹事名：高田 聡（商学科・教授）

2. 目的・内容：

経営に関する学術研究の発展を目的とします。商学科経営学講座のスタッフが主体となり、適宜、研究会を開催します。講座スタッフ間にとどまらない関連研究者との学術交流もめざします。

3. 平成23年度活動実績：下記、4回の研究会を開催しました。

5月13日（金） 小樽商科大学 1号館B会議室	第1報告：加賀田 和弘「社会的企業における経営者のリーダーシップと従業員のモチベーション」 第2報告：高田 聡「オーラル・ヒストリー研究の方法と意義」
9月6日（火） 小樽商科大学 1号館B会議室	第1報告：福重 八恵「若者の健康問題と健康支援ニーズ等に関するアンケート調査」 第2報告：加藤 敬太「企業家ネットワーキングによる地域企業のビジネスシステム・イノベーション」
11月11日（金） 小樽商科大学 1号館B会議室	第1報告：加賀田 和弘「社会的企業の経営理念とその起業・事業化プロセスに関する事例研究－有限会社 MOKU の事例研究から－」 第2報告：加藤 敬太「地域活性化と企業家的流れ－札幌ビズカフェの変遷と役割変化－」
2月23日（木） 14:30- 小樽商科大学 1号館B会議室	第1報告：高田 聡「M・ウェーバーの動機分析とニューディール型雇用システム」 第2報告：加藤 敬太「組織の長期変動と組織の本質」

## 経済研究会(土曜研究会)

1. 代表幹事名：松家 仁（経済学科・教授）／小島 直樹（経済学科・准教授）

2. 目的・内容：

経済研究会（通称：土曜研究会）は、昭和33年（1958年）に発足し、本学内で最も長期的に継続・実施されている経済学・社会科学の研究会です。

この研究会の目的は、本学の研究活動に対する啓蒙です。さらに、学内外の研究者の研究成果報告を通じて、経済学の最先端の研究テーマに触れる機会を本学の研究者に提供するとともに、研究テーマに関する闊達な議論を通じて、研究会参加者の研究活動を効果的に促進することも併せて目的の一つとします。

3. 平成23年度活動実績：敬称略。他の機関との共同開催含む。

\*敬称略。（）内は当時の所属。（計10回、ゲストスピーカーは9人）

8月8日(月) 9日(火) 10日(水)	SWET@小樽商科大学：労働・マクロ・計量
8月7日(日)	SWET@札幌サテライト：金融

10月14日(金)	清田 耕造 (横浜国立大学) : Firm Export Heterogeneity and International Productivity Gap: Evidence from France and Japan
10月21日(金)	浅野 貴央 (岡山大学) : An Ambiguity-Free Asset and its Bid-Ask Spread under Max-min Expected Utility
11月30日(水)	水島 淳恵 (小樽商科大学) : Human Infrastructure, Child Labor, and Growth
12月16日(金)	兵庫 一也 (龍谷大学) : Comparative Impatience under Random Discounting
2月22日(水)	石井 良輔 (愛知淑徳大学) : Observable Actions
1月20日(金)	尾山 大輔 (東京大学) : Labor Market Frictions and Industrial Structures in a Global Economy (with Noritaka Kudoh)
2月15日(水)	松原 聖 (日本大学) : Product Quality in Different Markets and Cost Structure
1月27日(金)	今 喜史 (青山学院大学) : Intersectoral Linkage of Labor Markets of Tradeables and Nontradeables Sector
2月6日(月)	齊藤 誠 (一橋大学) : Can radiation-contaminated food be marketed?
2月13日(月)	西山 慶彦 (京都大学) : A Goodness of Fit Test for Ergodic Markov Processes

4. 平成23年度研究成果 (刊行物, HPなど) :

<http://www.otaru-uc.ac.jp/dept/econ/workshop.html>

<http://www.otaru-uc.ac.jp/dept/econ/workshop/history.html#h23>

## **国際取引契約研究会**

1. 代表幹事名 : 中村 秀雄 (院アントレプレナーシップ専攻・教授)

2. 目的・内容 :

これから国際取引を始めようとしている人や, 既に取り取引を行っている人を対象として,

- ① 輸出入取引, 国際取引のノウハウ
- ② 国際的事業をどう構築すればよいか
- ③ 国際取引契約書 (特に英文契約書) 検討のコツ, を学んでいます。

参加者が実際に業務で使っている生の資料の提供を受けて, どのように対応すればよいかを, 具体的にかつ実践的に研究するほか, 貿易, 国際契約の基礎理論も勉強しています。

3. 平成23年度活動実績 :

9回の研究会を行い, 延べ117人が出席しました。

## **商学研究会**

1. 代表幹事名 : 高田 聡 (商学科・教授)

2. 目的・内容 :

商学科所属全教員がメンバー。商学科教員および学外の研究者による研究発表ならびに意見交換等を行います。各教員の研究内容について, 専門分野にとらわれることなく, 多角的な視点から議論することを特色とします。

3. 平成23年度活動実績：下記2回の研究会を開催しました。

5月14日（土） 15:00- 小樽商科大学 1号館B会議室	報告者：西本章宏（小樽商科大学）「消費者行動を起点としたマーケティング・マネジメント」
12月 5日（月） 18:00- 小樽商科大学 C B C 会議室	報告者・講師：安藤竜二（（株）DDR 代表取締役）「安藤竜二と企業家活動」 コメンテーター：金井一頼（大阪大学大学院経済学研究科） （地域研究会との共催）

### **進化経済学ワークショップ**

1. 代表幹事名：江頭 進（経済学科・教授）

2. 目的・内容：

社会・経済の進化構造を分析し、稼働可能なモデルの作成と実在論に基づいた事象の記述を行います。また、その研究者間の交流を促進します。

### **地域環境問題研究会**

1. 代表幹事名：八木 宏樹（一般教育等・教授），事務局：山本 充（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2. 目的・内容：

地域社会が抱える環境問題を自然科学・社会科学の両面から分析し、その解決に向けた処方箋や情報を提供することを目的とします。

### **地域研究会**

1. 代表幹事名：穴沢 眞（商学科・教授）

2. 目的・内容：

『グローバリズムと地域経済』というテーマのもと、これに関連する様々な研究を推進します。特に、北海道経済の活性化に資する研究に重点を置きます。

メンバー及び他の教員の研究に対して広範な助成を行い、地域連携のための業務も遂行します。

3. 平成 23 年度活動実績：

小樽商科大学創立 100 周年記念事業国際シンポジウム他，公開研究会 2 回，学内研究会 3 回，研究プロジェクト助成 9 件

公開研究会

<p>7月19日(火) 13:30-16:30 札幌サテライト 大講義室</p>	<p>研究会名, 開催部門等: 地域研究会講演会 テーマ: 「地域間格差: 住民と企業から考える」 講演者: 橘木 俊詔 (同志社大学教授) 参考資料: 橘木俊詔・浦川邦夫「日本の地域間格差 地域住民の生活意識と格差」, 『経済セミナー』, 4・5月合併号, 2009年, 102-119頁。</p>
<p>8月26日(金) 10:00-16:15 小樽商科大学</p>	<p>研究会名, 開催部門等: 小樽商科大学創立100周年記念事業国際シンポジウム &lt;分科会&gt; テーマ: グローバリズムと地域経済 プログラム: Opening Presentation MAIER, Gunther (ウィーン経済大学)</p> <p><b>分科会: 地方財政</b> 報告者: 赤井 伸郎 (大阪大学) 論題: Dynamic inconsistency in federations 討論者: 山口 力 (広島修道大学)</p> <p>報告者: 小西 秀樹 (早稲田大学) 論題: Yardstick Competition among Career-Concerned Local Officials: The Decentralization Theorem Revisited 討論者: 佐野 博之 (小樽商科大学)</p> <p>報告者: 中澤 克佳 (東洋大学) 論題: 住民選好の多様性と自治体歳出(Diversity of Preference and Local Public Expenditure) 討論者: 小林 航 (千葉商科大学)</p> <p>報告者: 近藤 春生 (西南学院大学) 論題: 都道府県支出金の実証分析(Empirics of Prefectural Grants-in-aid in Japanese Municipalities) 討論者: 砂原 庸介 (大阪市立大学)</p> <p><b>分科会: 経済統合</b> Comment for "FTA and community: which is the firststep in Northeast Asia?" by Prof. JIANG, Xenxue Speaker: Prof. ENDOH, Masahiro, Keio University "The effect of intermediate and final goods trade on wages in Japanese manufacturing firms" Speaker: Prof. ENDOH, Masahiro, Keio University</p> <p>"The characteristics and perspective of FTAs in China" Speaker : Prof. SUN , Yuhong, Dongbei University of Finance &amp; Economics Discussant : Prof. FUNATSU, Hideki, Otaru University of Commerce</p> <p>"The impact of FTA on technology spillovers through international trade" Speaker : Prof. JINJI, Naoto, Kyoto University Discussant : Prof. ISII, Akira, Kansai University</p> <p>"How realistic is close exchange rate cooperation among China, Japan and</p>

Korea?"

Speaker : Prof. HUH, Chan-Guk, Chungnam National University,

Discussant : Prof. OGAWA, Eiji, Hitotsubashi University

**分科会：都市計画**

1. 「学生研究発表」セッション

1-1. 田代 泰史 (筑波大学大学院システム情報工学研究科)

「視覚と聴覚を活かした都市の規模に関する考察」

1-2. 田中 弥菜美 (筑波大学社会工学類)

「地産地消の空間的限界」

1-3. 桜井 洋子 (南山大学数理情報研究科数理情報専攻)

「都市の歩行者数の推定方法の検討 ―愛知県豊橋市を対象として―」

1-4. 崔 唯爛 (筑波大学大学院システム情報工学研究科)

「商業施設における撤退・保護行動を考慮した立地最適化」

2. 「都市構造のモデルと視覚化」セッション

2-1. 石井 儀光 (独立行政法人建築研究所)

「都市構造の簡易な特性把握指標と可視化に関する研究」

2-2. 木内 望 (国土技術政策総合研究所)

「人口減少期における都市・地域の将来像アセスメント―道央圏・小樽市を対象としたケーススタディー」

3. 「都市地域解析」セッション

3-1. 廣井 悠 (東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 (Department of Urban Engineering, the University of Tokyo))

「東日本大震災における帰宅困難者に関する研究 (A Study on the Stranded Commuters in the East Japan Great Earthquake)」

3-2. UKAI, Takamori (Mathematical Sciences and Information Engineering Research Center, Nanzan University)

「Continuous Location-Allocation Problems for Empty Container Logistics」

3-3. KOICHI, Shungo (Faculty of Information Sciences and Engineering, Nanzan University)

「An LP-model for a road construction and repair program providing a robust network to the interruption of roads」

3-4. OHSAWA, Yoshiaki (Institute of Policy and Planning Sciences, University of Tsukuba)

「Spatial Tax Competition and Harmonization」

**分科会：観光**

GNOTH, Juergen (オタゴ大学/University of Otago)

Title : Making the Most out of Events: Learning from Auckland and Valencia's responses to mounting the America's Cup Regatta in 2003 and 2007

TAUDES, Alfred (ウィーン経済大学/Vienna University of Economics and Business)

	<p>Title : "A Comparative Study of E-Tourism between Hokkaido and Austria"</p> <p>吉地 望 KICHIJI, Nozomi (旭川大学/Asahikawa University)  Title : Network Analysis of the Traffic Line of the Tourists visiting Kamikawa Central District in Hokkaido, Japan -Based on the data from the "Kamui Mintara" stamp rally-</p> <p>井出 明 IDE, Akira (追手門学院大学/Otemon Gakuin University)  Title : Future Tourism in Hokkaido in terms of 'Comparison'</p> <p><b>分科会 : 医療</b>  長谷川 友紀 HASEGAWA, Tomonori (東邦大学/Toho University)  Title : Quality Initiatives in Healthcare- Experience of Japan</p> <p>小笠原 克彦 OGASAWARA, Katsuhiko (北海道大学/Hokkaido University)  Title : Future Medical Services in Hokkaido ? Present distribution of medical services and estimated numbers of future doctors</p> <p>LEE, Hae Jong (延世大学校/Yonsei University)  Title : The analysis of growth process and success factors of non-public hospitals in Korea</p> <p><b>分科会 : 経営</b>  YOON, Ki Kwan (忠南大学校/Chungnam National University)  Title : Differences among American, European, and Asian Approaches to Marketing: Positioning Strategies, Impressive Exhibitions, and Targeted Marketing</p> <p>KREUTZER, Ralf T (ベルリン経済・法律大学/Berlin School of Economics and Law)  Title : Global Marketing Strategy of one of the World's Leader in Printing Technology "Heidelberger Druckmaschinen" ? A Case Study</p>
--	---

<p>8月27日(土) 10:30-16:45 京王プラザホテル札幌</p>	<p>研究会名, 開催部門等: 小樽商科大学創立100周年記念事業 国際シンポジウム テーマ: グローバリズムと地域経済 —北海道経済の成長可能性—</p> <p>●基調講演: グローバリズムと北海道経済 講演者: 本間 正義 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授)</p> <p>●パネルディスカッション (90分) ※英語を交えた討論 (同時通訳あり) テーマ「グローバリズムと地域経済」</p> <p>「グローバル化が地域経済に何をもたらしたのか—各国の事例から」 ①グローバル化が地域経済に与える影響: 英国ヨークシャーとハンバーにおける都市再生 Dr. DABINETT, Gordon (シェフィールド大学 (イギリス)) ②世界化と地域経済の対応-韓国忠清南道の事例- 朴 珍道 (忠南大学校教授 (韓国)) ③ミシガン州における経済発展の取り組み: 北海道への示唆 Dr. MOSER, Christine (ウェスタンミシガン大学 (アメリカ))</p> <p>「地域経済はグローバル化をどのように活用すべきか」 ①観光分野でグローバルプレイヤーになるには: オーストリアの事例 Dr. TAUDES, Alfred (ウィーン経済大学 (オーストリア)) ②モビリティの拡大と北海道経済へのインパクト 穴沢 眞 (小樽商科大学教授) ③地域のブランド化: ユニークなセールスポイントの発見, 結合, 強化 Dr. GNOTH, Juergen (オタゴ大学 (ニュージーランド))</p>
<p>11月26日(土) 12:30-17:30 小樽商科大学</p>	<p>研究会名, 開催部門等: 第96回北海道経済学会シンポジウム テーマ: グローバリズムと北海道経済</p> <p>横内 龍三 (北洋銀行頭取) 「グローバル時代の地域経済—北海道経済の活力ある再生を目指して」</p> <p>プラート・カロラス (小樽商科大学教授) 「北海道観光の国際化」</p> <p>橘木 俊詔 (同志社大学経済学部教授) 「北海道経済を軸においた日本の地域間格差」</p>

学内研究会

<p>12月5日(月) 18:00-19:30 小樽商科大学 CBC会議室</p>	<p>研究会名, 開催部門等: 地域研究部門・企業経営研究会 テーマ: 「安藤竜二と企業家活動」 講師: 安藤 竜二 ((株) DDR 代表取締役) コメンテーター: 金井 一頼 (大阪大学大学院経済学研究科)</p>
<p>2月13日(金) 12:00-12:50 小樽商科大学 CBC会議室</p>	<p>研究会名, 開催部門等: 若手勉強会 テーマ: 共有財源問題と国直轄事業負担金 報告者: 木村 泰知 (小樽商科大学社会情報学科) 論題: 「地方議会会議録コーパスの構築とその学際的応用研究」</p>

3月2日(金) 14:00-15:30 小樽商科大学1 号館B会議室	研究会名, 開催部門等: 地域研究部門・法制度研究会 テーマ: アメリカ鉄道運送法制の概要と鉄道運送人の責任 家田 崇 (甲南大学会計大学院教授)
---	---

地域研究会研究プロジェクト助成

	申請者	研究テーマ 研究協力者数 備考
1	篠本 智之 アントレプレナーシップ 専攻・教授	テーマ: 韓国企業のグローバル戦略に関するケースリサーチ 研究協力者数: 本学5名(教授4名)(事務補佐員1名) 備考: 地域研究会メンバー2名(李 濟民, 近藤 公彦)
2	江頭 進 経済学科・教授	テーマ: 北海道における新エネルギーの現状と需給動向 研究協力者数: 本学3名(教授1名)(准教授1名)(学術研究員1名) 備考: 地域研究会メンバー3名(江頭 進, 加賀 田和弘, 渡久地 朝央)
3	小林 友彦 企業法学科・准教授	テーマ: 専門家養成プログラムによる外国人短期促進計画のフィージビリティ・スタディ 研究協力者数: 本学1名(准教授1名)外部2名 備考: 地域研究会メンバー1名(小林 友彦)
4	加藤 敬太 商学科・准教授	テーマ: 北海道における地域企業家のネットワーキング 研究協力者数: 本学1名(准教授1名) 備考: 地域研究会メンバー1名(加藤 敬太)
5	深田 秀実 社会情報学科・准教授	テーマ: 地域開放型研究セミナー開催による「知の循環構造」の実現 研究協力者数: 本学2名(教授1名)(准教授1名) 備考: 地域研究会メンバー2名(深田 秀実, 李 濟民)
6	石田 三成 地域研究会・学術研究員	テーマ: 銀行等引受債の金利に関する実証分析 研究協力者数: 本学1名(学術研究員1名) 備考: 地域研究会メンバー1名(石田 三成)
7	劉 慶豊 経済学科・准教授	テーマ: 人口減少社会と北海道経済 研究協力者数: 本学3名(准教授2名)(学術研究員1名) 備考: 地域研究会メンバー3名(劉 慶豊, 水島 淳恵, 石田 三成)
8	大津 晶 社会情報学科・准教授	テーマ: GISを用いた観光行動の時空間分析ー小樽市内を事例としてー 研究協力者数: 本学2名(准教授2名) 備考: 地域研究会メンバー2名(大津 晶, 深田 秀実)

9	渡久地 朝央 地域研究会・学術研究員	テーマ：道内における地域経済の現状分析 研究協力者数：本学1名（学術研究員1名）外部1名 備考：地域研究会メンバー1名（渡久地 朝央）
---	-----------------------	---

4. 平成 23 年度研究成果（刊行物，HP など）：

- ・プレ国際シンポジウム報告書（和文）
- ・ The 100th Anniversary of Otaru University of Commerce 1911-2011 International Symposium: "Globalism and Resional Economies" Post Conference Proceedings

HP については大学の HP からアクセス可能。地域研究会の活動や構成員の研究業績等も掲載。

<http://www.otaru-uc.ac.jp/hsyomu1/globalism/welcome.html>

### **地方政治システム研究会**

1. 代表幹事名：相内 俊一（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2. 目的・内容：

地方政府のマネジメントを，財政バランス・政策選択の優先順位・住民満足度・発展戦略などの観点から研究します。

### **地方政府レベルにおける多文化主義的地域政策研究会**

1. 代表幹事名：相内 俊一（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2. 目的・内容：

北海道の市町村における多文化主義的地域政策推進のための諸条件，政策領域の可能性などについて，比較文化的観点から研究し，地方政府の政策形成に寄与することを目的とします。

### **法制研究会**

1. 代表幹事名：小林 友彦（企業法学科准教授）／河森 計二（企業法学科准教授）

2. 目的・内容：

本学商学部企業法学科所属の教員及び大学院商学研究科現代商学専攻企業法学コース所属の大学院生による研究発表の場です。「広く法律学一般に関する学術の進歩を図るため，これに必要な調査研究発表を行うとともに，教官相互の研鑽と大学院教育の向上に寄与すること」を目的とします。そのため，大学院科目「法学総合研究A」及び「法学総合研究B」として，大学院生への教育の場にもなっています。

### 3. 平成23年度活動実績：

5月25日（水）	第1回（通算124回） 岩本 尚禧(小樽商科大学准教授)／民事詐欺の違法性と責任
6月22日（水）	第2回（通算125回） 國武 英生(小樽商科大学准教授)／就業形態の多様化・非雇用化と労働契約の性質決定—労働契約の性質決定における契約意思・経済的従属性・継続的契約の議論を中心に—
7月20日（水）	第3回（通算126回） 南 健悟(小樽商科大学准教授)／企業不祥事と取締役の民事責任—法令遵守体制構築義務を中心に—
10月26日（水）	第4回（通算127回） 河野 憲一郎(小樽商科大学准教授)／弁論主義と釈明権
11月30日（水）	第5回（通算128回） 河森 計二(小樽商科大学准教授)／[判例研究] 生命保険契約の自殺免責条項における自殺の意義（大阪地判平成22年6月14日（平21（ワ）7303号））
12月21日（水）	第6回（通算129回） 加藤 礼子(小樽商科大学大学院修士課程院生)／財産全部を相続させる旨の遺言がされた場合において、遺留分侵害額の算定にあたり、遺留分権利者の法定相続分に応じた相続債務の額を遺留分の額に加算することの可否 高橋 里実(小樽商科大学大学院修士課程院生)／[判例研究] 市立小学校6年生の児童が組体操の練習中に4段ピラミッドから転落して負傷した場合、担任教員に職務上の過失があったとして、市の損害賠償責任が認められた事例（名古屋地裁平成21年12月25日判決，判例時報2090号81頁）
2月22日（水）	第7回（通算130回） 多木 誠一郎(小樽商科大学教授)／韓国の協同組合法について
3月 2日（金）	第8回（通算131回） 家田 崇(甲南大学会計大学院教授)／アメリカ鉄道運送法制の概要と鉄道運送人の責任

### 4. 平成23年度研究成果（刊行物，HPなど）：

同年度に開催された上記研究会の報告題目が、

<http://www.otaru-uc.ac.jp/dept/law/housei/housei11.html> で公開されています。

### **北東アジア—サハリン研究会**

1. 代表幹事名：李 濟民（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2. 目的・内容：

経済活性化が望まれている北海道と大規模石油・ガス開発プロジェクトを実現しつつあるサハリンとの関係を中心軸にとり、それを取り囲む北東アジア地域の様々な問題群を検討します。

## **北海道ヘルスケア・マネジメント研究会**

1. 代表幹事名：李 濟民（院アントレプレナーシップ専攻・教授）
2. 目的・内容：  
医療機関等における経営活動に関する研究

## **マーケティング研究会**

1. 代表幹事名：プラート・カロラス（商学科・教授）
2. 目的・内容：  
本研究会の目的はマーケティング分野における最新研究に関する情報交換及び研究者交流の場を設けることです。本研究会におきましては、マーケティング関連の学内及び学外研究者による最新研究の報告，議論を行います。

### 3. ディスカッション・ペーパーほか

#### (1) Discussion Paper Series

平成 23 年度に発行したディスカッション・ペーパーは以下の 8 編です。

\*のあるものは、小樽商科大学文献リポジトリ「Barrel」で閲覧できます。

#### **No.139 Qingfeng Liu: Generalized Cp Model Averaging for Heteroskedastic Models (Revised Version) (4 月) \***

summary : This paper proposes a model averaging method, the generalized Mallows' Cp (GC) method, which works well for heteroskedastic models. Under some regularity conditions, we provide a feasible form of the GC method and show that the GC method has asymptotic optimality not only as a model averaging method but also as a model selection method for heteroskedastic models. We perform some Monte Carlo studies to investigate the small sample properties of the GC method. The simulation results show that our method works well and performs better than alternative methods.

本文 [http://barrel.ih.otaru-uc.ac.jp/bitstream/10252/4544/1/DP\\_139.pdf](http://barrel.ih.otaru-uc.ac.jp/bitstream/10252/4544/1/DP_139.pdf)

#### **No.140 Naoki Kojima: Exclusion of agents, virtual surplus and a transversality condition in adverse selection (5 月)**

summary : (Web での公開なし)

#### **No.141 Naoki Kojima: Implementability by a canonical indirect mechanism of an optimal two-dimensional direct mechanism (6 月)**

summary : (Web での公開なし)

#### **No.142 平井 進: 18・19 世紀前半北西ドイツ北海沿岸地方の領邦官吏と自治組織役職者: Landschaft Süderdithmarschen (6 月)**

概要 : (Web での公開なし)

#### **No.143 近藤公彦: CRM における顧客関係のマネジメント(8 月)**

概要 : この論文の目的は、顧客関係のマネジメントの視点から CRM における戦略と組織の 2 つの局面に注目し、その活動の広がりを経営的に理解する枠組みを提起することにある。まず、CRM とリレーションシップ・マーケティングとの関連を考察し、CRM の定義からその多義

性を明らかにする。次に、CRM の全体的な構造をこれまでの主要な研究で示されてきた概念枠組みに焦点を当てて分析を行うとともに、CRM によって生み出させる経営成果を整理する。最後に、CRM の成功・失敗要因をめぐる議論を検討することにより、CRM における顧客関係のマネジメントの 2 つの局面、市場マネジメントと組織マネジメントを提示する。

**No.144 加藤敬太:企業家ネットワーキングによる地域企業のビジネスシステム・イノベーションーサムライ日本プロジェクトの事例分析ー(10月)**

概要 : (Web での公開なし)

**No.145 Ryosuke Ishii:Observable Actions(2月)\***

summary : We consider a game with “meta-players” who observe each other’s actions before actual play. This observability exerts an effect similar to repeated games without discounting. This analysis is novel in that it makes “mimic strategies” possible; meta-players are allowed to take the same actions as opponents would take. Such mimic strategies have been excluded from strategy sets as a cause of an indeterminacy problem inherent in meta-game settings in the existing literature. We resolve the problem by introducing “beliefs” about actions that opponents are taking. The game has Nash equilibria with any individually rational payoff profiles. In addition, the outcomes that satisfy a modified version of evolutionary stability lead to Pareto efficiency in coordination games.

本文 [http://barrel.ih.otaru-uc.ac.jp/bitstream/10252/4776/1/DP\\_no145.pdf](http://barrel.ih.otaru-uc.ac.jp/bitstream/10252/4776/1/DP_no145.pdf)

**No.146 Chisato Shibayama; Yasunori Ishii:Dumping in Transition Economies and the Effects of Anti-dumping Policy(3月)**

summary : We consider dumping in transition economies and the effects of anti-dumping policy in the context of partial privatization under a mixed duopoly model. We develop a model with a public firm that is a monopolist in the home market and engages in Cournot duopolistic competition in the foreign market; we assume that the price elasticity of demand in the home market is smaller than that in the foreign market. We assume that a public firm aims to maximize social welfare and a private firm aims to maximize profit. We consider a process of transition as privatization, with a shift in intention from welfare maximization to profit maximization. Thus, the home firm carries out dumping under privatization. Unlike Matsumura (1998)’ s finding that full nationalization is optimal when the public firm is a monopolist, in our model, partial privatization is optimal. Dumping may occur under optimal privatization, and the importing country may have an incentive to impose an anti-dumping duty on the

home firm. If it does so, the home firm might increase welfare, thereby leading to an increase in welfare worldwide.

## (2)その他

・”CBC NEWS LETTER”

Vol.12 No.1 (9月)

1. センター長就任のご挨拶
2. ビジネス創造センターの新体制
3. 「CBCビジネスサポート」を開設
4. 平成22年度CBCセミナー実施報告
5. 平成22年度ビジネス創造センター産学官連携研究成果報告会実施報告
6. 主要日誌

Vol.12 No.2 (1月)

1. ビジネス創造センターと全北大学校（韓国）間で連携協定を締結
2. 北洋銀行ものづくりテクノフェア2011に出展
3. ビジネスEXPOに出展
4. CBCセミナーを開催
5. 三大学共同研究センター臨時情報交換会を札幌サテライトで開催
6. 学生論文賞の審査を開始
7. 教員紹介ビデオを作製中
8. 主要日誌

Vol.12 No.3 (3月)

平成23年度小樽商科大学学術研究奨励事業 第6回「学生論文賞」特集号

1. 講評と審査結果一覧
2. ヘルメス賞を受賞して
3. CBC主要日誌

・『平成22年度 ビジネス創造センター研究活動報告書』（6月）

・受託研究報告書『『多機能携帯端末を活用した地域の安心、安全情報の流通』に関する研究報告書』（平成22年度地域ICT利活用広域連携事業「ICTを利用した『みどりの分権改革』推進事業」）（執筆者：平沢尚毅、山田菊子、深田秀実、葛西秀昭 編集・発行：小樽商科大学ビジネス創造センター ユーザーエクスペリエンス研究部門）（7月）

・テキスト『効果的なIT投資戦略 上巻・下巻』（著者：黒田英雄 編集・発行：小樽商科大学ビジネス創造センター ユーザーエクスペリエンス研究部門）（9月）